

南アフリカ、新型肺炎のダメ押しで「ジャンク級」に転落

～機関投資家の退出を受けて当面のランド相場は荒れの様相を強めよう～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

(要旨)

- 昨年末に中国で発生した新型コロナウイルスは、足下で世界的大流行となるなど世界経済のリスク要因となっている。昨年末にかけての世界経済は米中合意への期待を背景に底打ちする動きがみられたが、南アフリカでは計画停電が足かせとなる形で「テクニカル・リセッション」に陥る厳しい状況に直面していた。さらに、足下では同国内でも新型肺炎の感染者数が拡大しており、非常事態宣言の発令及び外出禁止令の発動に踏み切るなど一段の景気減速が避けられない状況にある。こうしたなか、ムーディーズ社は同国を格下げし、主要格付機関はいずれも「投資不適格」となる。足下の国際金融市場の動揺を背景にランド相場は調整局面が続いたが、機関投資家の退出に伴う荒れ相場化に加え、一段と下押し圧力が強まることも予想される。

昨年末に中国で発生した新型コロナウイルス (COVID-19) を巡っては、中国国内での感染者数の拡大ペースは鈍化しているほか、その『震源地』である湖北省武漢市についても来月初めには約2ヶ月強に亘る『封鎖状態』から解かれる見通しとなるなど、事態収束に向けた動きが前進しつつある。他方、足下では中国以外で感染者数が爆発的に拡大しており、WHO (世界保健機関) も「パンデミック (世界的大流行)」の認定を行ったほか、世界的にヒトの移動を規制する措置が広がりを見せるなど世界経済のリスク要因となっている。なお、昨年末にかけての世界経済は、米中による「第一段階の合意」への期待を受けて一昨年以降の世界経済の最大のリスク要因となってきた米中摩擦が緩和するとの思惑を背景に、底打ちの兆候を見せる動きがうかがえた。しかし、こうした状況にも拘らず南アフリカは、慢性的な電力不足を理由に断続的に計画停電が実施された結果、昨年末にかけて2四半期連続でマイナス成長となる「テクニカル・リセッション」に陥る厳しい状況に直面している (詳細は4日付レポート「[南アフリカ、リセッション再突入の上、先行きも見通し立たず](#)」をご参照下さい)。さらに、年明け以降も断続的に計画停電が実施されるなど幅広い経済活動の足かせとなる状況が続くなど企業マインドは『底這い』の展開が続いてきたが、足下では上述の通り新型コロナウイルスの世界的大流行を背景に国際商品市況は頭打ちの様相をみせており、アフリカ有数の資源輸出国である南アフリカにとっては景気の重石となることが避けられなくなっている。また、今月に入って以降は同国でも新型コロナウイルスの感染者が発生している上、足下では感染者数が1000人を上回る水準となっており、政府は今月15日に非常事態宣言を発令したほか、27日には3週間に亘って全土を対象とする外出禁止措置が発動されるなど、景気の一部の減速が避けられない事態となっている。こうした事態を受けて、主要格付機関のうち唯一同国を「投資適格級」としていたムーディーズ・インベスターズ・サービス (以下「ムーディーズ社」) は27日、同国に対する外貨建長期信用格付を1ノッチ引き下げ (Baa3→Ba1)、これに伴い主要格付機関3社がいずれも同国を「投資不適格 (ジャンク級)」とすることとなった。さらに、ムーデ

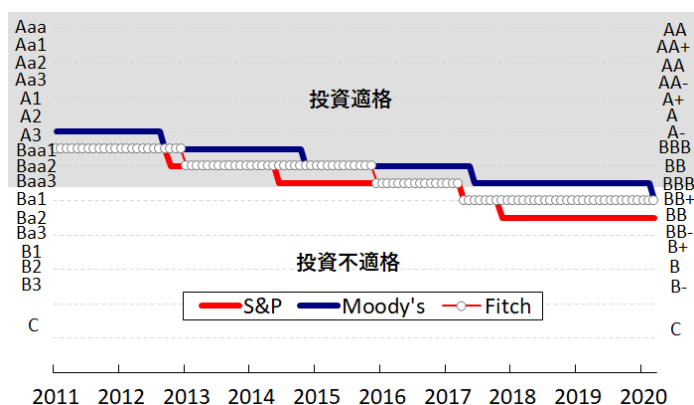
ィーズ社は先行きの見通しを「ネガティブ」としており、追加的に格下げが実施される可能性に含みを持たせた格好である。ムーディーズ社は、今回の決定について「財政状況の継続的な悪化と構造的な景気減速」を理由に挙げたほか、「すべての蓋然性の高い見通しに基づけば、向こう5年間に亘って債務負担の増大が見込まれる」とした上で「不確実な電力供給と持続的な企業マインドの悪化とそれに伴う投資活動の弱さ、長期に亘る硬直的な労働市場が経済成長の制約要因になっている」との認識を示すなど、

同国経済が直面する課題を挙げている。ただし、これらの課題は長年に亘って国内外から指摘されてきたにも拘らず、ムーディーズ社は格付を「投資適格級」に据え置くなど他社に比べて比較的穏やかな姿勢を示してきたものの、「新型コロナウイルスの流行に伴う世界的な景気見通しの下振れが同国景気及び財政状況を一段と悪化させる」との見方を示すなど、新型コロナウイルスの流行が『ダメ押し』に繋がったと捉えられる。このところの国際金融市場の動揺に加え、新型コロナウイルスの世界的大流行を受けた国際商品指標の低迷も重なり、通貨ランド相場に下落圧力が強まる展開が続いているが、ムーディーズ社の格下げ実施を受けて主要格付機関3社がいずれも同国を「投資不適格（ジャンク級）」としたことで機関投資家を中心に関連資産を手離す動きが強まると見込まれることから、結果的にランド相場は市場環境に

応じて上下双方に振れる傾向が強まるとともに頭打ちの展開が続くことは避けられないであろう。

以上

図1 主要格付機関の南アフリカ向け格付の推移



(出所)各社ホームページなどより第一生命経済研究所作成

図2 ランド相場(対ドル)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。